

■企画展

「四角い土俵とチカラビト ～盛岡藩の相撲～」

会期 平成18年9月23日(土)～11月23日(木) 会場 特別展示室

はじめに

土俵が「四角い」のは盛岡だけ？「力士」の呼び名は大相撲だけ？草相撲はどんな集団？盛岡藩のお抱え力士はどんな人？などなど、いろいろな疑問をまとめたのが今回の企画展です。

なぜ「四角い土俵」？

相撲の土俵は丸、と誰もが答えると思います。江戸時代から相撲が盛んな盛岡周辺では、庶民が観戦する^{かんじんずまう}勧進相撲に「四角い土俵」(角土俵)が使われました。なぜ四角だったのかを、盛岡藩の行司と力士の係わりから探りました。

「チカラビト」って誰？

盛岡藩が消滅した明治以降、お抱え力士や行司の相撲様式は、草相撲に伝承されました。草相撲は街角や神社で行われた娯楽の王様でした。

なかには、本名よりも^{しこな}四股名の方が通る猛者もいて、夏や秋の奉納相撲には、彼らを目当てに多くの観衆が集まりました。本展では、大相撲力士や、お抱え力士と彼らをあわせて「チカラビト」と表現しました。

これは、本来は別個の存在の三者が、構成員と「四角い土俵」との接点から、同じカテゴリーに入ると考えたからです。



四角い土俵とチカラビト
(昭和4年田頭相撲倶楽部) (個人蔵)

1 お抱え力士の化粧まわし

大相撲に二所ノ関部屋があります。この初代にあたるのが、北上市黒岩の出身の小田島音蔵・初代錦木塚右衛門(1760～

1823)です。盛岡藩お抱えで、文化元年(1804)に江戸相撲の最高位の大関に就きます。年二場所、一開催10～13日の当時、体重109kgの彼は、幕内を24場所務め60勝しています。引退後、初代二所ノ関軍右衛門を名乗り多くの弟子を育成しました。なかでも、甥の小田嶋音吉(1790～1832)四賀峯音吉は、八戸藩お抱えの大関を10場所務めています。

また二所ノ関が門人の錦野要作に与えた化粧まわしは、朱地の毛織物(機械織)に、盛岡藩のお抱えを示す違い菱の印紋が白くあしらわれています。(家紋ではありません)

同じ二所ノ関に属した、雪ノ浦松之助(1792～1855)は盛岡市上田出身です。三段目(現在の幕下に相当)の記録があり、四股名が化粧まわしに入っています。引退後は盛岡周辺の勧進相撲に係わりました。



初代二所ノ関軍右衛門化粧まわし(個人蔵)



雪ノ浦松之助
(個人蔵)

2 横綱免許秀ノ山



秀ノ山雷五郎
香蝶楼国貞画(館蔵)

気仙沼市最知出身 菊田辰五郎(1808～1862)
江戸幕内112勝 体重139kg 身長164cm
四股名 北山辰五郎 天津風雲右衛門
立神雲右衛門 岩見瀧丈右衛門(三代)
弘化二年(1845)横綱免許 大関13場所
年寄三代秀ノ山

盛岡藩お抱えの横綱です。ただし現在のよ様な横綱の地位は、明治時代の後半に確立します。江戸時代の最高位は大関で、その中の何人かが横綱免許を授かりました。

愛嬌のある体型の彼は、人気のバロメーターである相撲錦絵によく登場します。



秀ノ山の綱
(相撲博物館蔵)

また気仙沼市の近郊の大船渡市には秀ノ山が巡業した際に、相撲免許を授けられた草相撲の強豪や勧進元もいました。

3 角土俵と行司



相撲伝書（角土俵の構築）
（個人蔵）

盛岡藩の行司で、遊覧(勸進)相撲に深く関わったのが長瀬家です。石高は三人扶持ですが、領内の相撲を仕切りました。

藩内の遊覧(勸進)相撲は、風俗矯正や飢饉時の禁止を除き、お抱え力士や行司にとり興行収入を得る大切なものでした。藩の記録には長瀬家が相撲巡業の許可を求めた記載もあり、もちろん「四角い土俵」で行われました。

また、行司が使う軍配は、形や房の長さや色などが規定されていました。写真は遊覧(勸進)相撲などに使用したと思われる漆塗りの軍配です。南部家の割り菱が両面に金・銀箔であしらわれています。これは岩手県相撲連盟初代会長の故鈴木彦次郎氏が、太平洋戦争後に南部家からいただき、毎年、最強の郡・市団体チームの優勝盃として使われました。



行司軍配（館蔵）

住田町や大船渡市、旧石鳥谷町には長瀬あるいは山瀬という行司名を持つ人物がいました。彼らは大正～昭和初期までに長瀬家から行司免許を授かった人々です。藩消滅後も長瀬家が草相撲に影響力を持っていたことがわかります。

4 身近なチカラビト

写真は昭和30年代の川井村の四角い土俵です。行司の装束、土俵の作りなど盛岡藩の相撲様式の名残が見えます。



川井村小国諏訪神社奉納相撲（個人蔵）

また盛岡市仙北の草相撲集団、手柄山道場は、江戸時代のお抱え力士、七ッ瀧巖平が火消しを結成したにも関係します。写真の化粧まわしは昭和のものです。



草相撲化粧まわし

相撲絵馬には、コミカルなものがあります。写真は嘉永四年(1851)の奉納で、四本柱は紅白の丸土俵です。七福神の表情と明るい彩色に気持ち

持ちが和みます。

（主任専門学芸調査員 舟山 晋）



七福神相撲絵馬（岩根神社蔵）

企画展関連事業のご案内

講座・講演会 いずれも13:30～15:00
※講座・講演会は無料、展示室は有料です。
※②～⑥は定員140名で締め切ります。
※講堂への入場は12:30からです。

〔当日受付〕

- ①10月1日(日) 日曜講座（当館芝生広場）
内容：「角土俵の再現」
講師：岩手県相撲連盟 山田喜彦氏
- ②10月15日(日)秋期博物館セミナーⅠ（講堂）
演題：「岩手県相撲史—南部相撲から—」
講師：杉浦弘氏（磐田市文化財審議委員）
- ③10月22日(日)秋期博物館セミナーⅡ（講堂）
演題：「南部相撲を育み、高め、護った人々」
講師：木梨雅子氏（奈良女子大学大学院助手）
- ④11月12日(日)秋期博物館セミナーⅢ（講堂）
演題：「行司と軍配」
講師：根間弘海氏（専修大学教授）

〔事前申込〕

- 往復葉書でお申込み下さい。
- (1)往信に住所・氏名・電話番号・希望する講演会名を記入ください。
 - (2)返信の表側に住所・氏名を記入ください。
 - (3)申込期間内に葉書を受付け、定員に達した時点で締め切ります。
 - ⑤11月3日(金・祝)文化講演会（講堂）
演題：「裸で学んだ人生観」
講師：納谷幸喜氏（相撲博物館長）
事前申込期間：10月2日(月)～4日(水)
 - ⑥11月21日(火)民俗講座（講堂）
演題：「大相撲の宗教学」
講師：内館牧子氏（横綱審議委員会委員）
事前申込期間：10月16日(月)～18日(水)
- 展示解説会 14:00～15:00（特別展示室）
期日：9月23日(土)、10月28日(土)、
11月18日(土)

※図録「四角い土俵とチカラビト」は当館にて1冊1,000円で販売致します。数に限りがございますので、お早めにお求めください。